

◆骨粗しょう症とは

私たちの体の中では日々、古い骨を壊して（骨吸収）新しい骨を作る（骨形成）というのを繰り返しています。骨粗しょう症は、女性ホルモンの消滅や加齢により、骨を「壊す」と「作る」のバランスが崩れて、骨が脆くなり、骨折しやすくなる疾患です。

日本では骨粗しょう症に罹っている方が増加傾向にあり、1590万人に上ると推定されています。

◆骨粗しょう症治療薬と薬剤関連性顎骨壊死

骨粗しょう症の主な治療薬は・ビスホスホネート製剤（BP製剤）・抗RANKL抗体（デノスマブなど）・抗スクレロstin抗体（ロモソズマブ・デタミシ）製剤、カルシウム製剤、女性ホルモン製剤、副甲状腺ホルモン製剤などがあります。

これらの薬は、骨形成を促したり骨吸収を抑制し

骨粗しょう症と歯科治療の関係
～歯科医院受診時はお薬手帳の提出、治療中の申し出を～

クレロstin抗体は、まれに顎骨壊死（薬剤関連性顎骨壊死）を引き起こす副作用が報告されています。

この顎骨壊死は、虫歯や歯周病による歯肉・顎骨の炎症や、入れ歯などによる歯肉の傷への細菌感染により発症する場合があります。

◆骨粗しょう症と歯科治療

骨粗しょう症治療をされている方、またはこれから治療をする方は歯科受診時には注意が必要です。

①お薬手帳の提示を忘れずに

骨粗しょう症治療薬の

骨吸収抑制薬剤
使用中



鶴岡地区歯科医師会

中でも顎骨壊死に影響を与えないものもありますので、自己判断せず必ずお薬手帳を持参してください。手帳には書かれていない注射投与もありますのでその旨歯科医師に伝えてください。鶴岡地区歯科医師会では、鶴岡地区医師会、鶴岡地区薬剤師会の協力のもと、お薬手帳に「骨吸収抑制薬剤使用中」と表示したシール貼付事業を行っています。

②注意が必要な処置があります

抜歯・インプラント・歯周外科など顎の骨に直接影響する処置は特に注意が必要です。

一般的な処置でも細菌感染が顎骨壊死の引き金となることもあるため定期的なメンテナンスが大切です。セルフケアや定期的な歯科検診でお口の中の細菌をなるべく減らすよう心がけましょう。

詳しくはかかりつけの歯科医院でお尋ねください。

（鶴岡地区歯科医師会）